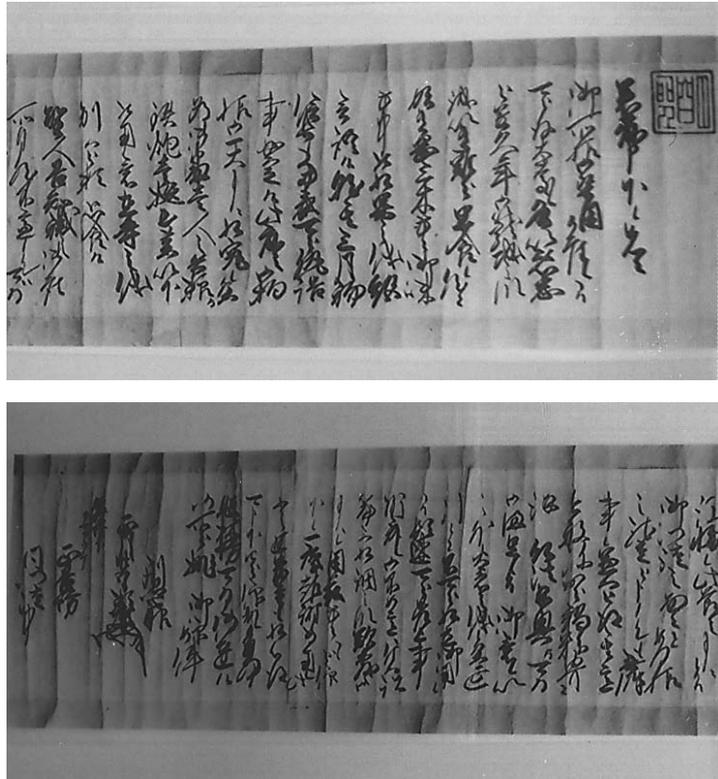


# 山陰

編集 山陰教区基幹運動推進委員会  
発行 山陰教区教務所  
〒900-0001 松江市大正町四三ノ一  
本願寺山陰教堂  
TEL 〇八五二 四七四七  
FAX 〇八五二 八三五一  
発行者 野村宗雄



寺院名物シリーズ⑩ 下間頼廉書状 仁摩組満行寺

本願寺と織田信長との争い(石山合戦)は十一年間、続いたと云われています。この古文書は、天正八年(一五八〇)、正月二十五日に発給されたものです。文書には、「おのおのの懇志もつて久年の御籠城を遂げらるるの段、まことにもつてありがたくお

ぼしめされ候。しかれば、有岡・三木をはじめ方々の御味方中あい果てらるるの儀、言語に絶え候。それについて、三月はじめ、信長当表とり詰めるべき必定に候」とあります。本願寺方の有力武将であった別所長治が、播磨三木城において信長配下の秀吉

と戦ったが、糧道を絶たれ、落城の目前に迫ったのを悟り、部下の士卒の助命を請い自決した。この書状は、長治自害後八日目に送られたもので、本願寺方の危急の切迫感が文中によく表されている。

## あんのんとしび 安穏灯火リレー 「人から人へ 心から心へ」

山陰教区教務所長 野村宗雄

このたび、大遠忌法要お迎えの気運高揚と法要の広報を図る「安穏灯火リレー」をお迎えしました。九月十六日にご門主さまが本山御影堂の常灯明より分灯された「安穏灯火」が日本列島を南北ふたつのコースで全教区を分灯しながら巡回、北コースでは、非戦・平和への誓いをあらたに千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要においても分灯式が行われた記念事業であります。

灯火は、「安穏号」と名づけられたワゴン車での移動でしたが、車体は白地に灯火のようにオレンジから黄色へグラデーションという鮮やかに彩られ、灯籠の絵と「安穏灯火リレー 西本願寺」と書かれています。

山陰教区では、安穏号の視覚効果に併せて音声効果も考慮し、拡声装置付の車両を用意、ご法要の案内とリレーの趣旨、併せてリレーのテーマソング「道」を放送しながら伴走することにしました。

九月三十日午後、沖繩・九州から山口・安芸の各教区の巡回を経た安穏号を島根・広島の間境を越えた北広島町の超専寺にてお迎えしました。西林坊(邑智東組)、浄福寺(大森組)、光榮

寺(出雲組)と立寄り、分灯式を行いました。翌十月一日は松江市内を宣伝した後、山陰教堂での式典、午後より鳥取へ向かい香宝寺(伯耆組)での分灯式を終えて備後教区(福山市)へ向かう安穏号を見送りました。

各寺院の分灯式では、日没後となつた寺院もありましたが、多くのご門徒が参集お迎えをされ、山陰教堂の式典も満堂の参詣のなか、分灯に引き続き宗祖讃仰作法を唱和し、ご法要に向け心をあらたにしたことでした。

事務局の至らぬ点もありましたが、巡回をお受けいただいた寺院のご住職、寺族、門徒の皆さまをはじめ、前任教務所長に準備委員の方々、教堂式典出向のご講師、撮影のご協力に至るまで、多くの皆さまのおかげにより遂行できましたこと、衷心より感謝する次第であります。

人から人へ、心から心へ「世のなか安穏なれ」の願いが広く伝わりますように。このたびのご縁に遇われた人、またそうでない人も、宗祖の遺訓「世のなか安穏なれ」「仏法ひろまれ」の心を灯火にご法要をお迎えし、そして宗祖聖人にお礼申しあげましょう。



# 安穩灯火リレー 山陰教区を巡る



2010 (平成22) 年9月30日～10月1日、安穩灯火がリレーされました。

まず9月30日午後3時、安芸教区超専寺において山陰教区へ灯火が引き継がれました。灯火は国道261号から大邑農道、国道9号を經由して、邑智東組西林坊、大森組浄福寺、出雲組光榮寺へとリレーされた頃には、辺りはすっかり夕闇に。翌10月1日、午前中に松江市内を巡回PRした灯火は、午前11時山陰教堂に分灯されました。そして、山陰道を東進して伯耆組香宝寺に分灯された後、米子道から備後教区へとバトンタッチされました。



分灯



灯の入堂



安芸から山陰へ  
(山陰教区 野村教務所長)  
安芸から山陰へリレーされました (超専寺)



分灯された灯



灯のお出迎え



阿弥陀さまに献灯 (西林坊)



灯の入堂



灯の集い (光榮寺)



灯の到着



灯のご出立 (浄福寺)



分灯



灯の到着



灯の集い (山陰教堂)



三御前に献灯



灯を乗せて松江市内を巡回PRする安穏号



灯の集い (香宝寺)

(資料提供)

仁摩組龍善寺・龍野清閑さん制作DVD、他

### 退任ご挨拶

本願寺門司教堂主管  
金山 往生

謹啓。慈光照護のもと、いよいよご清祥のこと慶賀に存じます。

この度、九月十日付をもちまして山陰教区教務所長・本願寺山陰教堂主管を退任し本願寺門司教堂主管を拝命いたしました。

在職中は公私にわたり特段のご厚情を賜りましたこと衷心よりお礼申し上げます

新任地にて宗門の護持発展のために微力ながら精進努力いたす所存でございます。何卒今後とも相変らぬご教導の程よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら皆様方のますますのご健勝を念じますとともに略儀ながら右退任のご挨拶を申し上げます。

### 就任のご挨拶

山陰教区教務所長  
野村 宗雄

このたび九月十日付にて山陰教区教務所長並びに本願寺山陰教堂主管を拝命いたしました。長らく

本願寺および宗派の収納事務に係らせていただきましたが、教区においての宗務は初めてとなります。不案内、不慣れなことが多々ありますが、微力ながら円滑な業務を心がけ、基幹運動の推進に精進いたす所存であります。何卒ご指導、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

前任所長より引き継いでおります中、山陰教堂の教化センター開設につきましては、おかげにより今般着工の運びとなり、明年九月、教堂の大遠忌法要に併せ落慶法要を勤修いたします。ご協賛賜りましたこと厚くお礼申し上げます。

また、組画の編成については、組長様方を中心に、特に過疎化の進行という実状を踏まえ、将来を見据え活性化をめざした取り組みにご尽力いただいております。今後とも成案に向けて前向きな調整をお願いする次第です。

さて、いよいよ来る四月よりご本山の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要がご修行になります。このご勝縁に際して、皆様の団体参拝日にはできる限り小職もご本山に向いたすこととしており、ともにご参拝できますよう念じ、就任のご挨拶とさせていただきます。

組相談員研修会・基推婦人研修会

ビハーラ活動をとり巻く環境整備を模索して  
「私が参加するビハーラ」への取り組みのために

宗門が取り組むビハーラ活動も早二十年を迎えた。この度の大遠忌法要に伴う新規事業として城陽市に「ビハーラ本願寺」が設立されて新たな活動展開がなされていることは周知のことと思う。山陰教区では「教区報五八号」に平成二(二〇〇一)年の「ビハーラ山陰」設立報告の記事がある。

しかしながら、その母体たる「社会福祉推進協議会(昭和五三年設置、略して「社推協」という)」は名ばかり。諸悪の根元は「教区社推協が休止状態にある」ことは明白であるが、それに追従するかのよう、二〇〇九年度末の各組事業報告では「組社推協」の設置は一組に止まり、「ビハーラ活動をしている」と報告を受けた組は十組を数えるのみである。合わせて、福祉施設などのボランティア活動をされている組は前記と重複して十八組との報告である(但し、個人や組あるいは任意団体等による奉仕布教などについては把握できていない)。

こうした事情を鑑みて、「ビハー

ラ活動の裾野の拡大」を主眼に、「僧侶と門信徒の課題の共有」「男女共同参画」の基推重点項目に則り、七月八日は「組相談員研修会」、翌九日は「基幹運動推進婦人研修会」が開催された。講師には、この一連の流れを尊重して、昨年度の「ビハーラ公開講座」に出向いただいた長倉伯博中央ビハーラ推進委員を再度招聘して、同一テーマ「私が参加するビハーラ」についてご講義いただいた。

特養をはじめ多くの末期医療施設や高齢者福祉施設に入所しておられる方々は、特に過疎地山陰においては家族の見舞いや面会も少なく、「孤立」「無縁」の社会現象の最先端を露呈している。かつて、共に仏法活動に情熱を燃やし、仏婦活動に専念され、多くのお導きをいただいた先輩方であり、向う三軒両隣のお付き合いをしてきた方々である。

御同朋の元におみおのりを

伝える活動、胸襟を開いて傾聴してゆく活動は、「自信教人信」の宗門の伝道姿勢に学ぶ私たちにとって、欠くべからざるものであることを指摘された研修会であった。



お仏壇・仏具は やっぱり京都・・・



SINCE 1830

心に響くご法要を... Support 750 MADE IN KYOTO

伝統工芸 京仏壇・京仏具

(株) 若林

www.wakabayashi.co.jp

京都本社 / 京都市下京区七条通新町東入 (075)371-3131 (代) 年中無休〒600-8218

フリーダイヤル ☎0120-37-8585 (各店共通)

東京店・築地店・札幌店・仙台店 近江草津店・福岡(営)・新潟(営)

E-mail info@wakabayashi.co.jp

昭和33年10月 たった1台のタイプライターから 当社の歴史は始まりました



あなたの要望を形に!

商業印刷

印刷の原点はここにある

出版印刷

活用方法は無限大

マルチメディア制作

出力サービスもおまかせ

オンデマンド印刷

イベント用ポスターなど

株式会社谷口印刷 TANIGUCHI PRINTING CORPORATION

〒690-0133 松江市東長江町902-59 朝日ヒルズ TEL(0852)36-5888 FAX(0852)36-5889

# 山陰教区若婦人研修会に参加して

因幡組浄善寺 杉山郁子

去る七月二十四日(土)、山陰教区若婦人研修会が、因幡組妙圓寺を会所に開催されました。

ご講師に出雲組覚専寺ご住職の佐々木俊教先生をお迎えし、午前中のご講義が始まりました。

冷房の効いた涼しい会場内はしんと静まり、参加された皆さんの緊張が伝わってきます。そんな空気を和らげて下さった先生の、「真剣な顔で聴聞しないで下さいね。笑顔で聴聞して下さいれば嬉しいです。」とお言葉で、最後まで肩の力を抜いて穏やかな気持ちで聴聞することがで

ました。 「真実に会うよろこび」をテーマに、あてのないものにふりまわされている私達だけど、真実の教えに出遇わせて頂き、還っていく処があるというものは何ものにも代えがたいよろこびになると、ご法話をたまわりました。

何が本物で何が偽物であるかと思極める眼をもつことができると、聴聞を重ねていかなければならないと深く感じました。

午後の分散会では、三つのグループに分かれ意見交換が行なわれまし

仏教との出遇い、仏青参加時代を通して現在病院で行っているビハラー活動、その基となる幼児教育について講義をいただきました。

二日目は講師に安藤常光先生(大分教区大海組仏言寺衆徒。金沢大学准教授)をお迎えし、「音楽が人の心につたわるとき」について歌唱指導、講義をいただきました。

また、来年は山陰教区担当にて「中・四国ブロックまことの保育大学講座」開催の予定でしたが、大遠忌の年のため一年延期することとな

## 中・四国ブロック まことの保育大学講座

七月二十七日から二十八日にかけて、安芸教区の担当によりANAKラウンプラザホテル広島を会場として「中・四国ブロックまことの保育大学講座」が開催されました。一日目は講師に宮崎幸枝先生(医療法人精光会みやざきホスピタル理事長・副院長)を迎え、「伝えよういのちの尊さ」と題し、子どもの頃からの

た。

話し合いが苦手なために、会に参加されぬ方も沢山いらっしゃるので、無理をしても参加することにより、出逢いのご縁が生まれ、心と心の通い合う人間関係を築き上げる機会ができるのではないでしょう。

私の誘いで研修会に参加して下さい方は、「また誘って下さい。」と笑顔でおっしゃいました。とても嬉しいお言葉でした。

また、研修終了後は妙圓寺仏教婦人会の皆さんによるお手製の巾着のお土産を頂きました。心づくしのおもてなしに感謝しながら帰途につきました。

りました。



御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055  
(600-8344) 京都市下京区花屋町通油小路東入

電話 (075) 371-0367 (代)  
FAX (075) 371-5088

御本山御用達 開明社員

**井筒法衣店**

代表取締役社長 幾田潤

(〒600-8503) 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

フリーダイヤル TEL 0120-075-720  
フリーダイヤル FAX 0120-075-490

- ・式部装束
- ・門扉
- ・旗念珠
- ・旗念珠
- ・装束袴袍帳
- ・製製切布戸
- ・條條衣・敷
- ・七五色黒打

### 基幹運動推進ブロック連絡会議

山陰教区が過疎化の波に喘いでいることは周知の通りで、いまさら説明をする必要はない。しかし、この課題を放置するわけにはいかないことも熟知のことである。

この大きな課題を抱えている最中に「組画再編成」が中央から指示され、話題沸騰の真つ只中に「ブロック連絡会義」が持たれたのは、「奇しくも？」と思わざるを得ないところである。寺院の活性化、その活性化について話題紛糾のブロック連絡会義となったことは、別表の通りである。が、総合的に見た場合、一層の課題山積の「組画再編」と懸念される。潤滑な組画再編、寺院の活性化の遂行を望むところである。

### 『全国真宗青年の集い』 自分自身と向き合う時間

出雲組 源光寺 西谷 遼子

私は八月六日から七日まで神戸で行われた『全国真宗青年の集い』に参加して、改めて浄土真宗の教えに触れ、自分自身と向き合うことができました。また、私が真宗関係の研修会に参加したのは中学一年生以来だったので、久しぶりに同年代の人

地区	開催期日	会場	テーマ	参加者数
邑智	6月18日	邑智西組長円寺	開かれたお寺をめざして	97名
出雲	7月26日	飯石北組チェリパホール	開かれたお寺をめざして	101名
鳥取	7月22日	伯耆組勝福寺	現状を踏まえた寺院活性化の方策	86名
石西	7月29日	三隅組浄蓮寺	今こそ組画を考える！	82名
石東	9月3日	温泉津組瑞泉寺	組画再編と宗法改正について	92名

たちと真宗に関わる話をする事ができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

一日目は、神戸別院の親鸞聖人七五〇回大遠忌お待ち受け法要で、音楽法要のご縁に遇わせていただきました。いつもとは違う正信偈をおつとめしながら、とても厳肅な気分になりました。来年本山では四月から毎月行われるようなので、ぜひもう一度お参りをしに行きたいと思いま

### 山陰教区仏教壮年会連盟 酷暑の中で熱気高まる三地区研修会

今年の三地区研修会は、会場ごとにテーマを設定いたしました。それぞれ魅力的な講義をいただき研修をすることができました。概要は別表の通りです。

まず鳥取地区では「生活の中の佛」か、佛の中の生活か」について講演をいただきました。日々のお念仏は、生活が安定して送れる上に成り立っているものなのか、生活を支えているのがお念仏かという視点に立つて、私たちにとつての「教え」について学びました。

また、石見地区では、ご講師が仏壮登録にいたるまでの活動と、現在行っている活動について講演をいただきました。活動実践の様子を聞きながら、身近な問題とも重なり、今後に向けて大きなヒントをいただきました。

最後に、出雲地区では「お浄土とはどんなところですか」をテーマに、「お浄土・教え」について学びました。浄土を場所としてとらえるだけでなく、親鸞聖人のお言葉や経典を通して、お浄土について聞かせていただきました。

も参加を続けていきたいです。

地区	期日	会場	講師	参加者数
鳥取	8月1日(日)	伯耆組本巖寺	上杉正之 (伯耆組香宝寺)	71名
石見	8月28日(土)	悠邑ふるさと会館	三谷卓良 (市山組西教寺)	55名
出雲	9月12日(日)	今在家農業ホール	玉野覚明 (飯石南組明覚寺)	54名



# 中・四国ブロック少年連盟指導者研修会

山陰教区少年連盟副理事長

大田組常見寺住職 大草 顕 信

去る七月一日・二日、一泊二日の日程で、「二〇一〇(平成二十二)年度中・四国ブロック少年連盟指導者研修会」が松江市のホテル六道湖を会場として、おおよそ七〇名の参加を得て、開催されました。

この度の研修会テーマは『みんなほとけの子』とし、コンセプトとして「子どもに向けて、どのように話せばいいのか」ということを学ぶだけでなく、共に阿弥陀如来さまに育てられていることの尊さよるこびを知るご法縁となることを願う開催です。

両日、研修の講師に内田正祥先生(連研中央講師・三重県市正覚寺住職)をお迎えしました。師が三十年前に日校を立ち上げられてから、驚きと戸惑いの中でのご苦労話に続いて、子どもたちと素晴らしい「話し合い法座」が出来たよるこびをお話いただいたことです。

そこでは、子どもの「阿弥陀さんってホントにおるんか」「おるなら見せて」の問いに、「母ちゃんのお腹の中にいる時、母ちゃんはみえんやろ?! 宇宙中が阿弥陀さん

のお腹の中、見えんはずやわ」に、子どもが「でっかいなあ すっごいなあ」と讚嘆したこと。それらが、「みんな阿弥陀さんの子どもなんや仲良くしようね」に結びついたことのお話を感慨深く拝聴させていただいたことです。

夕方からの懇親会では、「チームADA」さんによる情熱的なアフリカダンスと打楽器の演奏に会場が盛り上がりました。

二日目は、班に分かれて「子どもと私」というテーマのもとに話し合いがありました。参加者の、日頃子どもと接する中での喜びや悩みが吐露され、共有されたことでした。

この度の研修会を通して、現場は試行錯誤の連続ながら、その歩みが尊いこと、そして、子どもに問いを投げかけるだけでなく、共に問いを感じ、深めてゆく歩みの大切さを改めて感じさせていただきました。

私がよくこんでいるものは必ず伝わりますよね!それを信じて共に伝えてまいります!!

## 僧侶研修会と教学座談会

### そして「宗祖讚仰作法」勤式講習会

九月八日・九日の両日、大田市民会館を会場に僧侶研修会が開催された。合わせて、例年の通り教学座談会並びに勤式講習会が開かれた。参加者は八二名、延べにして二四〇名であった。

僧侶研修会では本願寺派司教・東光爾英先生より「仏教から真宗へ」というテーマで、特に「若者への教学伝道のアプローチを考える」と題して講義をいただいた。龍谷大学で教鞭をとられていた体験を通して、若者の宗教離れが顕著な現代にあつて、如何に仏教を、そして真宗のみ教えを伝えてゆくべきか、個々の課題に対しての若者たちの反応の様子を具体的に交えながら、若者の心を捉えるポイントを、内容や組み立て方などなど、微に入り細に入つての講義をいただいた。

宗教離れは若者に限ったことでもなく、また今に始まったことではないが、葬儀や仏事のあり方が様変わりしつつある現代という時代状況を如何に把握し、それらの課題に対する具体的な取り組み方など、多くの学びを得ることができた。

そして、これらの課題を山陰教区という現場で如何に取り組んでゆくか、結果的にリンクすることとなったが、教学座談会では「お墓・インターネット」新たな繋がりの中で」と題してパネル討論会が行われた。進行は教学専

門委員・菅秀範さん(大田組善性寺)、パネリストには「お墓の無いお寺」から伯耆組香宝寺・上杉正之さん、「ブログ、ツイッター」から因幡組浄宗寺・片上義弘さん、そして「合同墓、離郷門徒」から温泉津組西楽寺・菅原昭生さんが招聘された。それぞれのパネリストの活動内容を紹介いただく中に、何故そのような新たな取り組みをしなければならなかったのか、参加者をはじめ、山陰教区全体、あるいは地域地域が抱えている課題が浮き彫りとなり、大きな示唆を受ける座談会であった。

また宗祖讚仰作法の制定に伴う勤式講習会も、ある意味では「漢字離れ」「お経離れ」の現象を受けての「ひらがな聖典の制定だったか」とも受け止められる。親鸞聖人の御和讃に親しむこともさることながら、やはり「読んでいても意味の分からない」と言われるお経は現代にはそぐわなくなつたところもあるのではないかと。

真宗のみ教え、お経の良さ、お寺の素晴らしさ等々、私たちはキチンと伝えていくのだろうか。僧侶の責任はいよいよ重い。



# 寺族婦人会連盟研修会

寺族婦人会連盟 副会長  
非々玲子 (川本組信楽寺)

残暑厳しい九月十日、寺族婦人会連盟研修会を、川本組法隆寺を会所に開催いたしました。

川本は島根県のちようど中央に位置してはいるものの、公共交通機関を利用して集まるには非常に不便な所です。参加しづらいだろうと心配しましたが、東は出雲組から西は益田組まで九十名近い参加者があり、研修を深めることができたのは、担当組としても嬉しいことでした。

教区勤式専門委員長・勤式指導員であり、大田組浄土寺ご住職である徳川真英先生をご講師に、「宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要について」(宗祖讃仰作法)と題してご講話をいただいた後、実際に宗祖讃仰作法の練習をしました。音楽法要の正信念佛偈は、いわゆる「十二礼の節」によるので、参加者によるお勤めは、皆さんの心がひとつになり、よい響きでした。音楽法要全体に附楽として、西洋音楽的な和声を伴った器楽が添えられているところに、現代的な法要の感じを受けます。午前午後にあつたの宗祖讃仰作法の研修は、いよいよ来年にせまった親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に向けて、意義ある充実した内容であつたと思います。

開会式での来賓祝辞で、川本組長能美龍雄様より、「坊守は優しさの手本になつてほしい」とのお話がありました。児童虐待、所在不明の高齢者、年々増加する自死の問題等々、ますます人間関係が希薄になり、生きにくい社会になつてきていると感じられる現在です。私たちお寺に住まわせていただいている者は、阿弥陀如来さまの限りない慈悲につつまれている喜びをかみしめ、人と人の温かいつながりの輪を大きく広げていく取り組みを一つでも二つでも積み上げていけたらと思うことです。明るい笑顔、温かい言葉かけ等、ちよつとした心がけ次第で示される優しさの手本はいろいろあるのではないのでしょうか。

川本組寺婦の会は十名の会員ですが、開催組として会員一人ひとりの持ち味を發揮しつつ、協力し合つて研修会を終え、満足感を味わうことができました。ご講師様、参加くださった皆様、関係の方々へ深く感謝申し上げます。



## 第四連区門徒推進研修協議会

# 安芸教区布教団「聞法の集い」と連携して

九月二十五日、二十六日の両日、安芸教区担当による「第四連区門徒推進研修協議会」が、広島県民文化センター、広島別院をメイン会場として開催され、山陰教区からは二十六名の参加を募ることができました。

まず、今回のトピックスは安芸教区布教団とタイアップして「第十七回聞法の集い」に参加。沁々とお聴聞をさせていただいたことです。

例年、満杯の県民センターだそうですが、その約五百名(内、今回の門徒推進員の参加総数は八九名)の参加者の中には数多くの常連さんがいるようですが、まだまだ門徒推進員という知名度が低いということから、敢えてタイアップした企画ということでした。

「聞法の集い」には安芸教区布教団から、年齢的に見て若手・中堅・ベテランの三者三様のお取次ぎがありました。一方、連区門徒推進員連絡協議会からは各教区代表者五名によるパネル討論会が催され、教区全般の取り組みや各々の代表者の現場での活動の様子などが紹介されました。

そして、翌二十六日は会場を広島別院に移して、恒例の「話し合い法座」を中心にして研修をいたしました。来年度からは門徒推進員の中央教修

の「年齢制限が撤廃」されることになります。また昨年度より御正忌報恩講や宗祖降誕会などに於いて、新たな門徒推進員の活動現場として「奉仕員」の制度が設けられました。もちろん大遠忌法要に於いても「奉仕員の募集」が計画されています。

ますますの門徒推進員の誕生を望み、より一層の活動の活発化に期待するところです。

仏壇・寺院用品・製造・修復

報恩感謝

ぶつだんの

内田衷造商店

木次 ☎(0854)42-0266 下熊谷 ☎(0854)42-3711  
出雲 ☎(0853)21-3253

## 「全国寺族青年野球大会」 いつの日か、優勝旗を!

江津組円覚寺 小笠原義敬

九月二十八日・二十九日の両日に亘り、京都にて開催されました「第三十四回全国寺族青年野球大会」に参加してきました。

前日に京都入りした私達は、初戦の相手が、十年前に決勝戦で敗れて以来連敗中の東海教区と知らされ、リベンジの思いに燃えました。

大会初日、前夜からの雨でグラウンドの状態が万全でないまま、二時間遅れで始まった試合。雨後の蒸し暑さも重なり、選手、特に投手にとっては、調整が難しい状況となりましたが、持味を發揮し、力投してくれました。

しかし、肝心の打線が、相手の踏ん張りに応えることが出きず、相手ベテラン投手に二安打に押さえ込まれ、結果、〇―二で敗れてしまいました。

残念ながら、今年も優勝の夢を果たすことは出来ませんでした。若返りつつあるチームにこれからの可能性を感じます。

西に東に離れた野球部員が揃って練習することは容易ではありませんが、いつの日か優勝旗を山陰に持ち帰るべく、これからも、共に相和して、研鑽してまいりたいと思います。

## 『連研のための研究会』

十月四日、「連研のための研究会」が本願寺山陰教堂にて開催されました。

各組から組長、連研担当者を中心に四六名が参加し、「葬儀の現状について」をテーマに研修しました。

講師は兵庫教区より連研中央講師の棚原正智先生を迎えて問題提起をいただき、現代における葬儀について研鑽しました。

講師から「葬儀について困っていること」のアンケートを参加者におこないましたが、法名・位号・六曜の問題、自治会の崩壊や葬儀会館の問題など、ほとんどの僧侶が同じ悩みを持っているようです。連研をとおしながら僧侶側も学び考え、模索していく必要があるのではないかと感じました。



## 第四連区

### 青年布教使研修会

十月二十・二十一日の両日、第四連区青年布教使研修会が山口別院を会場にして、開催されました。私は初日に行われた実演布教に出講させていただきました。会所である教證寺様では、寺族の皆様方やお同行の皆様方に温かく接していただき、ぬくもりのある中でお取り次ぎさせていただきました。そして、実演のあとには厳しい講評をいただきました。その中で特に感じたのは、布教使がいかに「ことば」を大切にしなければならぬかということ。一つの一つの言葉を選びとり、どのような言葉で仏法を伝えていくのか。またどのような言葉が適切な表現であるのか。布教のご縁というのは一度きりです。その中で仏法を伝えていくためには、まさに自分の生きた言葉というものを持ち合わせていなければならないと思えました。ただ一つ残念であったのは、山陰教区からの青年布教使の参加者が少なかったことです。もともと我々青年布教使は研鑽を積み重ねなければなりません。青年と呼ばれる時間はあつという間に過ぎていくでしょう。そのためにも、今後我々青年布教使に對しまして、諸先輩方よりの厳しいご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 第九回中・四国ブロック

### 仏教壮年会員研修会

十一月二十三日から二十四日にかけて、備後教区の担当により、アルセを会場として講師に釈徹宗先生(大阪教区如来寺住職、相愛大学人文学部教授)をお迎えし、「はじめたばかりの浄土真宗」と題し、さまざまな切り口から浄土真宗、仏教活動について講義いただきました。

二日目の協議会で初めに出た話題が「なぜ組織を作らなくてはならないか」ということでした。宗派仏教壮年会では、重点目標として単位会結成率五十%を目指しています。

しかし、その目標達成は全国的になされていない現状があります。その都度出てくる質問が、「そもそも単位会は必要か……」ということ。理由としては「それぞれの各寺院有志で活動するのなら、登録は要らないではないか」というのです。元来、門信徒会運動の流れを汲む仏教壮年会は「同朋教団」「伝道教団」への「本来化」を目標として開始されました。

しかし、それらが達成されたかという、まだ未達成と言わざるを得ません。その中で、連盟化により推し進めて行くのが結成の趣旨でもあります。なお一層の単位の会拡大が確認されました。

# 第四連区布教使研修会に参加して

三隅組専正寺 小野 隆志

去る八月二十三、四日の両日、備後教区に於いて開催された連区布教使研修会に今年も参加させて頂いた。

今年は思いがけなくも、班別会議の発表役を仰せ付けられ、狼狽する位とまもなく、覚悟を決めて会議に臨みました。与えられたテーマについて、自

らの思いのたけを陳べ合う出席者は、発表者の都合などということは考えられないわけで、どのようにまとめて発表したらよいか困惑しました。かつて読んだ本に、「うまくまとめるには、何を入れるかより、何を捨てるかを考える」とあったので、私は敢えて個別

の意見を逐一陳べることをせず、話題の内容と方向性に従い、取捨選択して発表させて頂きました。

各班の発表後に、講師の先生が総まとめをされましたが、「話し上手は聞き上手とは正にこのことだなあ」と感じ入りました。

それにつけても、人の話を聞くということが如何に大事かということも学んだ有意義な二日間でありました。

## 特別法務員・法務員試験合格者研修協議会

### 現代の葬儀と僧侶の課題について

七月三十日、本願寺山陰教堂を会場に標記「研修協議会」が開催され、本山式務部会役者・満田宣也師を講師として、先般宗門が提示した「葬儀規範に於ける変更点」を中心にご教示をいただいた。宗門を取り巻く危機的状況が手に取るほどに感じられる研修であった。

しかし、該当者百三十余名に比して二十名ほどの参加者は例年の平均的参加者数であるが、果たして多いか少ないか。

今研修会の中心テーマ「葬儀」については、結果的に、その後開催された「教学座談会（九月八日）」、「連研のた

めの研究会（十月四日）」などと連動することとなる程の位置を占めていたのである。

「直葬」といわれる社会現象や仏事における「無縁化（遠縁の親族を招かない）」など、寺院基盤を揺るがす現象がマスコミを通じて報じられる只中にありながら、ただ単に「無関心」とは言い得ない現状も推察するが、法務員・特別法務員としての自覚の有無を露呈した研修協議会になった感がある。

そういう意味では、新たな課題を見出すことのできた研修会とも言えよう。

## まごこの保育研修会

九月十八日（土）に、浜田組金蔵寺において「第二回山陰教区保育連盟まごこの保育研修会」が開催されました。講師に山陰教区保育連盟理事長・光幼稚園園長・西谷正文先生をお迎えし、『まごこの保育について』の講義をいただきました。また、金蔵寺・国府幼稚園で毎年行っている宗派保育連盟制定のミュージカル「成道会」について実演DVDによる発表会が行われました。

話し合いにおいては、各施設におけるまごこの保育の実施、実務について情報交換が行われました。

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店  
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社

 **ふるた 佛具製作所**

営業時間／午前9時より午後5時30分 定休日／日・祝日

〒600-8227 京都市下京区七条堀川上ル菱屋町(西本願寺前)  
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836  
<http://www.furuta-butugujo.jp>



Your Global Lifestyle Partner  
**株式会社JT中国四国  
松江支店**

住所：〒690-0003 島根県松江市朝日町480-8 松江SKYビル1F  
TEL：0852-23-2020(国内旅行)／23-2024(海外旅行)  
0852-23-6720(団体旅行)  
FAX：0852-23-2023

### 総局巡回の報告

七月二十日、山陰教堂において「親鸞聖人七五〇回大遠忌に関する協議会」とする山陰教区への総局巡回が、橘正信総長、西脇修見総務、随員中尾史峰総局公室長、他関係部長二名、事務局二名の出向と教区出席者六十名(宗会議員、教区会議員、組長、教化団体代表者)により開催された。

開催趣旨の中心は、「あらたな始まり」を掲げる親鸞聖人七五〇大遠忌宗門長期振興計画の推進事項の一つである基本法規の改正について、総局が本年二月に提出を受け、その後宗門に広く提示した宗門基本法規制定調査会からの答申書「新基本法規の骨子」に対する意見、提言を今後の改正の具体化



に向けて、聴取、集約することです。宗門の重大な案件のため、橘総長は全教区を巡回された。

教区出席者からは、手続が性急で不十分なこと、改正による経費増に伴う寺院への負担増を不安視する声、また門主の当責についての質問が山積された。

今後、全教区の意見が集約された上で、改めて骨子の見直しから成案化がされ、宗会に諮られることとなります。

### お知らせ

#### 崇徳学園から 寺院子弟推进入学制度導入

宗門関係学校の崇徳学園(広島市西区楠木町 吉田義視校長)では、寺院子弟に広く門戸を開放するため、明年度入学試験から、同学園の中学・高校で「浄土真宗本願寺派寺院子弟推薦入学制度」を導入することにした。詳細については、同学園(☎〇八二・二三七・九三三一)まで。

東京から移り住んで九年、何とか住職として今日までできました。最初に住職として取り組もうと思つたのが日曜学校でした。

大学の四年間、児童教化研究会というクラブに所属して京都市内のお寺の日曜学校を任されて、いろいろ学んだことを実践してみようと考えたからです。

ところが、いざみんなに声を掛けてみたところ「ご院家さん、この頃の子供は塾やスポーツクラブが忙しく日曜学校どころではありません」と一蹴されてしまいました。

何故日曜学校に拘わるのか。今盛んにキッズサンガが叫ばれていますが、東京でもこちらでもない子供、いや子供だけでなく大人でも合掌できない人が増えてきているように思えてなりません。

親が教えないのか。その親がそもそも合掌を知らないのか。考えてみれば「合掌」という形は仏教の基本中の基本であります。だから日曜学校を考えたのです。

さて、塾やスポーツクラブに多忙な子供たちに来てもらうにはどうしたらよいだろうかと始めたのが「月光寺書道教室」でした。毎週土曜日、朝九時から約一時間半、

### 帳 楽 憂

#### 月光寺書道教室

出雲組 月光寺  
蓮岡隆章

本堂に机を並べて小学生二十人程が筆と墨で悪戦苦闘しております。この三月には初めて六年生二名が修了証書を手にして巣立ちました。何分にも、一年生もいるので、そこから中墨だらけ。しかし、そうはいっても本堂でやるのが大事。畳の上に汚れてもよいゴザやカーペットを敷いたり机を並べたりで二十分。後片付けは汚れを拭いたり筆を洗ったりで約一時間。なかなかの激務です。

始めと終りは必ずご本尊の前で念珠を手に合掌礼拝します。念珠の持ち方、合掌の仕方等々、この子たちが次世代の合掌する仏の子としてお念仏の声を引き継いでくれたら。間もなく六年目を迎える月光寺書道教室も多少意味があったといえるのではないでしょう。か。





# 因幡組活性化の現状と今後の課題

組長 山名法道

いま因幡組の中に大きな変化が生まれようとしています。そして、それは各寺院、各教化団体の活動の中に大きな波となって広がっています。

それは、今回第五期を終えようとしている門徒推進員養成連続研修の大きな成果であり、連研修了者の多くが仏婦、仏壮等各教化団体の中で確実に育った結果でもあります。

まずその動きは総代会の運営に現れた。「総代・世話人教本」を総代の必携本と定めた研修、因幡組寺院の寺史を纏めた本の作成、各住職が避けていた「三業惑乱」に関わった因幡組の歴史の研修、「靖国問題」の研修など、総代会自らが企画し、研修会の参加者も従来の二倍近くの七十名へと活況を呈してきました。

これらの活動に刺激されて、これまで旺盛な活動を続けて来た仏婦の活動にも新しい試みが見られるようになりました。

一方、門徒推進員も順調に増えており、中央教修の年齢条件にあわなかった連研修了者を対象とした研修会など、新しい動きが仏壮の活動にも影響をあたえ、それらが相乗効果

となって因幡組の結束に寄与したものとされます。

市内寺院では、地域に密着した寺院を目指して、写経、寺子屋コンサート、音楽の夕べなどいろいろな取り組みを始めています。

キッズサンガへの取り組みが子供たちをお寺へ惹きつけるための手段ではなく、子供たちを仏の子として育て、多くの人達に寺へ目を向けていただき足を運んでもらうことを組内の全寺院が模索し続ける努力を惜しまないようしなければなりません。



## 編集後記

教区報『さんいん』一一八号をお届けいたします。ご覧ください▼自坊の報恩講も終わりこれから門徒報恩講が勤まります。先日、お参りした先のお婆さんが「大遠忌法要はこれで二度目のご縁。五十年前、二十歳過ぎで嫁いで来た小娘に、あなたは留守番よと姑さんに言われ、見送った思い出があります。生涯二度のご縁があってもなかなか遇われません。この度は家族を誘って参拝します。」と話の内容から自分も行ったかっただけ、行くに行けない状況がそこにはあったのだと感じました。五十年に一度のご縁、大切に迎えて頂きたいことです▼その大遠忌を前に、宗門では組画編成・宗法改正と慌しい動きが表面化してきました。将来を左右する大事な議案ですが、この時期にそれも急ぎ早に議決されるかもしれません▼格差社会と呼ばれて久しいこのごろですが、地方の声が中央に届いたところで問題にされなければ格差が益々広がるばかりです。地方の寺院がこれからは取り組む難題を一人ひとりが共有し、相応しい方法によってクリアしていかなければと思っています。(T)

……ともに いのち かがやく 世界へ……

「大遠忌法要」の団体参拝の計画は  
「念仏奉仕団」お気軽にご相談下さい。

……旅のことならどんな事でも……

**knt!** 近畿日本ツーリスト

〒690-0887 松江市殿町517番地  
(国土交通大臣登録旅行業第20号)

ここにこ よやくさんばん  
☎(0852) 22-4893

